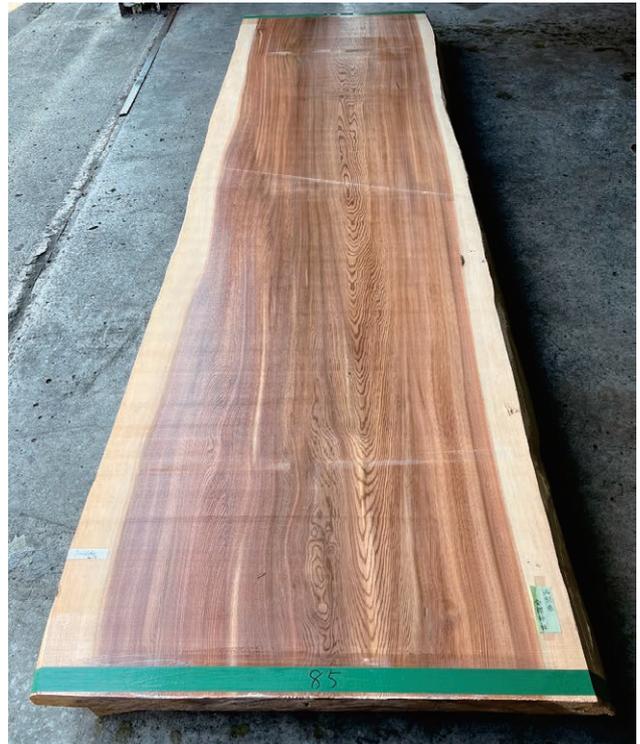


## はじめての秋田から～山梨～滋賀～東京ミッドタウン

三班 株式会社かつら商会 桂 英子

令和5年5月26日、27日に協同組合 秋田県銘木センター（秋田県能代市）にて開設52周年木魂祭第39回 銘青会まつり特市が行われました。そこでいろいろな出会いがありましたので少しご紹介をさせていただきます。

4.20～4.10×6.0～9.0×80.0～116.0 杉厚板(写真)が数枚、出品されておりました。そこには山梨県「金櫻神社」と明記されており、私にとりまして初めての秋田、初めての市でセリ落として参りました。なぜここに山梨からきたのかとても興味がわき、金櫻神社の方に問い合わせを致しました。重機も入らない神社境内入口、266段の階段の途中に50メートル位の巨木が植わっていたそうです。7本杉の巨木群生林の1本で樹齢700～800年、甲府市 天然記念物指定 本殿は国宝に指定され、高さ50メートルくらいもある杉が、民家に12度ほど傾斜しており、枝自体が傾く方向のみに生え残っており、雪が降り積もれば雪の重みでもしも倒れてしまうような事があれば、民家や石段も崩れ落ちてしまいそうな危険な状態でした。



荷主：瀬川銘木(株)(写真提供(株)東邦)

誰も切ることが出来ず、気がつけば10年、話を聞きつけて木を伐ってくれる人が来てくれ、いざ切ろうとしても市の教育委員会から存続の声もあり、そこから数年、いったんあきらめかけましたが危険木を放っておかず、令和2年伐採の旬である12月に実際に伐ってみると根元部分が内部空洞で外側からでは解らない状態だったそうです。倒れる時には10メートルも飛んだそうですが、怪我人もなく、神様のおかげかもしれないとおっしゃっていました。根本部分は近くの稲荷神社に奉納されることになっているそうです。私は8月に現地を見ておりますが、皆様も是非山梨方面にお越しの際にはお立ちより下さいませ。

この初めて行った、秋田県銘木センターでのいろいろな出会いが縁となり、懇親会で竹六商店様にお会いしご挨拶をさせていただきました。竹六商店様は滋賀県で主に竹材の取り扱い、施工をされており、その仕事ぶりは業界の評判になっています。また、東京ミッドタウンに竹材を納めているとの事で、先日見に行きその素晴らしさに感服いたしました。

その話を班会議で少し話したところ、「イイですね!」と皆様に強く押され、このような記事を掲載していただくことになりました。そういうわけで以下、皆さんにご紹介いたします。

株式会社 竹六商店は、滋賀県東近江市福堂町。1920年に創業いたしました。



設計：井上久美設計室 (写真：富田英次)



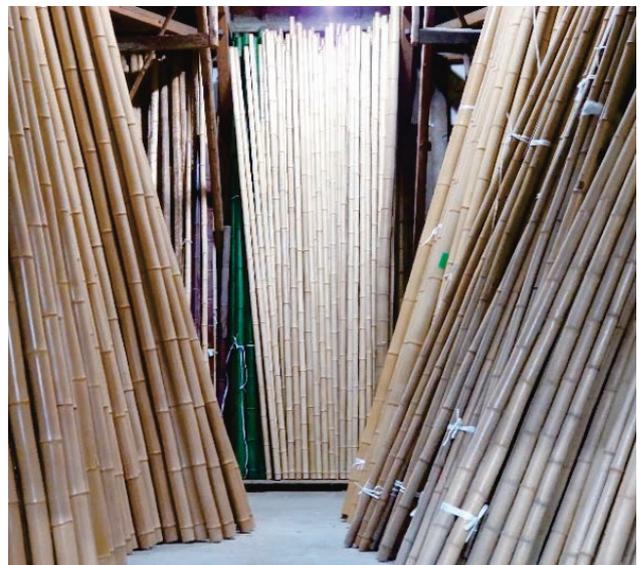
設計：傳寶慶子建築研究所 (写真：富田英次)



竹材矯正作業



天日干し (晒工程)



竹材倉庫



桎割建具



簾虫籠(スムシコ)建具

創業以来、天然素材の竹をはじめとした建築内装材の製造販売がメインの建材メーカーです。

独自の加工技術で意匠性のある内装材や天井材など、豊富な竹製品を取り揃えています。

加工技術につきましては、割る・削る・矯正する・編む・染めるといった手仕事で細やかな受注に応じています。2023年1月に新設備を導入し省力化や新たな加工ノウハウの蓄積を計画中

また、加工した竹の美観を維持するために竹の三悪と言われる【害虫・カビ・割れ】に対する対策に力を入れています。これら対策は、人体に対しては安全性が評価されている製品を選定。防カビ性に関しては社外で試験を行い、社内の処理条件で問題ないか評価しています。



新導入設備 (NCルーター)



防カビ試験



防虫薬剤含浸装置



割れ防止のウレタン樹脂充填

より安全な製品を提供するために、不燃・準不燃製品の製品化。大きな施設では、建築内装制限により天然素材の使用に制限がかかる中、竹の不燃化を実現へ日々努力をしています。また、木材(網代)に関しては昨年、不燃認定を取得。樹種も杉以外に承ることができます。ご入用の際にはお問い合わせください。(株式会社竹六商店 TEL:0748-45-0231)

屋外用途については、納入時の美しさをできる限り永く維持させたいと、耐候性塗料の選定を行うなど、開発を進めており、総合的な生活提案企業としてさらなる努力を重ねてまいります。



続いて、東京ミッドタウンを少しご紹介させていただきます。

東京ミッドタウン六本木は、2007年春に六本木の防衛庁跡地に開業。

「JAPAN VALUE」を世界に向けて発信していくことを、街づくりのビジョンとしています。

この中に4つのコンセプトがあり、

- 多様な都市機能をコラボレーションさせて新たな価値を創造する「DIVERSITY」  
→バンブーフローリングなど上質な空間を構成する新たな和の素材として価値を創造している。
- 日本古来のおもてなしの心が息づく「HOSPITALITY」  
→日本の古来のおもてなしを極限まで高めた茶の湯の文化の中には重要な素材として多用されている。
- 人と緑が共生する空間「ON THE GREEN」  
→ガレリア内には今回ご紹介する商材を、外構緑地には土地に根づいた竹を多用している。

姫曙孟宗竹[ヒメアケ  
ボノモウソウチク]と  
いう品種改良された生  
きた竹林を植栽。

- デザインとアートの新たな才能をはぐくむ  
「CREATIVITY」

→竹という成長が早く生命力にあふれる竹で作成する竹のオブジェの作品など定期的にディ



スプレーするなど新たな才能をはぐくみ、発想につながるような取り組みを実施している。

竹六商店が納入している真竹のディスプレイは、ミッドタウンの開発コードの重要な要素であるため、毎年責任感をもって仕入れから設置までサポートさせていただいています。

こちらの竹は、滋賀県の管理された竹林で切子さんが伐採し、社内で油抜き処理をした後、染色と防虫処理は外部の染色屋さんに依頼しますが、その後の発泡ウレタン樹脂充填、背割り、ジョイント加工、竹の葉取り付けは全て社内の職人が行っています。

設置場所は開放感のある吹き抜けですので、この場所にマッチする9m程の特注品です。

通常品は4mですが、特注品は9m以上の竹を枝付きで仕入れて上記の加工をしています。

竹材は、乾燥・寒暖差に弱いためどうしても割れが生じてしまいますが、ご担当者様のご理解もあり毎年十数本ずつ交換して良い状態を維持しています。

年末イベントに向けた模様替えで11月ごろに抜き取り、12月末に新しい竹と補修した竹を設置しています。合計70本、夜間作業です。

1本1本曲がりや枝葉のバランスが異なるので配置を考慮しながら作業しています。

例年は真竹を納入していますが、去年はミッドタウン様のご要望で亀甲竹を初めて納入しました。

写真では雰囲気等をお伝えしきれませんので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください！

余った亀甲竹をミッドタウンのご担当者様に結界として作っていただきました。

打ち合わせスペースで活躍中とのことです！

以上、秋田での嬉しい出会いからの繋がりをご紹介させていただきました！

